

## 2019年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

幼稚園から大学院まで連なる総合学園としての関西学院は、その良さを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、接続する学校の教職員から専門的な視点による意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、中学部の学校評価が学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）において承認されましたので、ウェブサイト上で公表させていただきます。

本年度も、経年変化を見るために、引き続き「教育課程・学習指導」、「生徒指導」、「保健管理」、「保護者との連携」、「キリスト教主義教育の実践」、「特色ある教育の実践」を評価項目に設定しました。評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からの意見を集めることによって客観性を確保しました。加えて、今年度からアンケート調査に関西学院のスクールモットー “Mastery for Service” についての質問を、「学院共通項目」として設定し、中学部では評価項目にも設定しました。アンケートの回収率は、生徒 97.7%、保護者 61.9%、教員 100%となっております。

今年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果を参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた方策を示し、自己点検・評価としました。また、上記のように、接続する学校の教職員からの意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は、学校評価を通じて自らその課題を探り、それに向き合って改善することによって、より充実した教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2019年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。

2020年3月13日  
関西学院中学部  
部長 藤原康洋

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

中学部がめざす教育の目標

1. キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切に、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
2. 建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来、高等部、大学、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

### 2019年度の評価項目

- ①教育課程・学習指導：全生徒に対して中学部がめざす水準の基礎学力を定着させるとともに、学力上位生徒に対して、興味関心に応じた発展的学習を行うため、学習課程の精査や教授力の向上をめざして設定している。
  - ②生徒指導：生徒の社会的資質や行動力を高め、学校が生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることをめざして設定している。
  - ③保健管理：生徒の身体面、精神面にかかわる項目として設定している。
  - ④保護者との連携：生徒を育てるには学校教育と家庭教育に一貫性がないといけない。そのため保護者と教員の連携が密になるように設定している。
  - ⑤キリスト教主義教育の実践：建学の精神としてのキリスト教主義教育の充実をめざし設定している。
  - ⑥特色ある教育の実践：中学部の特色として重点的に展開している授業や行事等の充実をめざし設定している。
  - ⑦関西学院共通項目：スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成をめざし設定している。
- 以上の7項目。

### 2019年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての教員間の共通理解と連携】	自己評価	B
目標	教員による教育課程の全体像の理解		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎年、学習ガイドブックを作成し、生徒に対する教科学習へのガイダンスを行っているが、同時に教員も、そこから各教科の概要を把握・理解できるように期待をしている。</li> <li>●学力推移調査、GTEC、全国学力・学習状況調査等、外部試験の結果および分析を全教員に開示することによって、客観的な学習到達状況を周知している。また、外部試験だけでなく学内での定期試験、学習評価等の分析を行い全教員に結果の開示を行っている。</li> <li>●非常勤講師も含め、教科担当者会議を行い、個別生徒の学習状況について情報交換を行っている。また、隔週の教員会議でも適宜、情報交換を行っている。</li> <li>●教員アンケート質問1「教員は、教育課程の全体を理解している。」の項目についての肯定的評価が、昨年度とほぼ同じ75.7%であったが、一昨年度の66.6%よりはやや向上している。ただし、肯定的評価の内訳では「強くそう思う」の率は9.1%から21.2%の向上が見られた。その一方で、教員アンケート質問3の</li> </ul>		

	「教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。」に対する肯定的評価 91.0%との差は否めない。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本項目については、従前の取組を継続的に行うとともに、それが実効的に働くよう、研修的な取組も行う。</li> <li>●次年度は教科書の採択替えの年度に当たるので、それを利用し、各教科の目標・学習活動などについての情報交換を行う。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力的的確な把握】	自己評価	A
目標	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従来通り、定期試験だけでなく、小試験、口頭試問、課題提出、日々の学習活動への意欲等を含め、細やかな学力評価を行っている。</li> <li>●外部試験としては学力推移調査、GTEC、全国学力・学習状況調査を行い、客観的な学力把握に努めている。</li> <li>●日本漢字能力検定、実用英語技能検定を受検し、生徒らが意欲的に学力向上と学力把握に努めるよう、表彰等を行って、それらを奨励している。</li> <li>●外部試験などの結果を返す際、問題の解説にとどまらず、評価数値の持つ意味なども適宜、生徒に説明している。</li> <li>●生徒アンケート質問3「中学部は、自分の学力や体力を正しくつかんでくれている。」の項目について昨年度同様、84.2%（昨年度 82.3%）の生徒が肯定的評価をしている。</li> <li>●同旨の質問である保護者アンケート質問4「中学部は、生徒の学力や体力を適正に評価している。」でも昨年度同様、88.8%（昨年度 91.0%）の肯定的評価が得られている。</li> <li>●教員アンケート質問2「教員は外部テスト導入などにより客観的な学力把握に努めている。」の項目について、肯定的評価が昨年度は 81.9%、今年度は 78.7%と、これもほぼ同様であった。ただし、肯定的評価の内訳では「強くそう思う」の率は 15.2%から 24.2%の向上が見られた。</li> </ul>		
今後の方策	●概ね、良好な結果が得られているので、従来の取組を継続的に行う。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】	自己評価	B
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業をめざしての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従来通り、全教員に対して研修日を設定し、また個人及び教科研究費を支給し、研鑽の機会を確保している。</li> <li>●各教科で独自教材を活用し、基礎学力の定着をはかっている。</li> <li>●生徒アンケート質問5「授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。」について 82.5%の肯定的評価が得られており、昨年度の 78.3%から微増であるが、この傾向は数年来変わっていない。</li> <li>●教員アンケート質問3「教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。」については前述のように 91.0%であったが、昨年度の 97.0%からは減少している。</li> <li>●教員アンケート質問4「教員は、質の高い授業をめざして、授業研究を不断に行っている。」に対する肯定的評価は 84.9%（昨年度 90.9%）、教員アンケート質問</li> </ul>		

	<p>5 「教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。」に対する肯定的評価は81.8%（昨年度90.9%）と昨年度よりやや低下している。</p> <p>●教員アンケート質問6 「教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。」に対する肯定的評価が75.8%（昨年度78.8%）であったのは昨年度同様である。</p> <p>●教員が授業研究に費やす機会が相対的に減少しているのは気がかりである。これは、教員が日々、授業以外で生徒対応、学級経営や課外活動への対応に追われていることが原因と考えられる。</p>
今後の方策	●働き方改革を含め、各教員が自己研鑽を行えるような環境の整備を行う。

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】	自己評価	A
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●従来、英語で分割授業を行っていたが、今年度は数学でも分割授業を一部導入し、授業内で個別生徒に対応できる機会を増やした。</p> <p>●授業では、各教科、発展的、応用的内容を扱うよう努めている。</p> <p>●数学、英語では到達度の低い生徒に対し、補習を行っている。他教科においても個別的に遅れの目立つ生徒には、課題を課す等の対応を行っている。</p> <p>●生徒間の学力差が大きく、授業内容、進度の焦点を合わせにくくなっているのが現状である。</p> <p>●生徒アンケート質問6、保護者アンケート質問5の、補習等の機会が確保されているかについての項目では、生徒の肯定的評価が91.4%（昨年度87.1%）で、保護者の肯定的評価が69.9%（昨年度70.8%）であり、昨年度と大きく変わらない。</p>		
今後の方策	<p>●数学や英語の分割授業で、できる限り生徒の必要性に合わせた授業構築を行う。</p> <p>●到達度の低い生徒への対応を継続するとともに、学力が高く、学習意欲も旺盛な生徒の要求にも対応できるよう、習熟度別学習の幅広い導入を検討する。ただし、これの実現に向けた人的・財政的担保は必要である。</p>		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】	自己評価	A+
目標	生徒会など自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課（学習）を妨げていないことの徹底		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●クラブへの入部率は従来通り95%程度であり、生徒は、課外活動へ意欲的に参加している。また、受験希望者対象の学校説明会などでも、アンケートや個別質問で課外活動への関心の高さがうかがわれる。</p> <p>●学校行事への生徒会の関与、地域清掃活動や骨髄バンクへの募金活動等を生徒会が企画するなど、自治活動も盛んである。</p> <p>●生徒会活動全般を通じ、自治意識の涵養につとめている。</p> <p>●課外活動と学習の両立を図るため、従来どおり、定期試験前1週間はクラブ活動停止としている。</p> <p>●学習や家庭・地域での体験ができるよう、休暇中のクラブ活動日を、夏期休暇中は18日に制限し、冬期休暇中は停止しているのは従来通りであるが、今年度から学期中のクラブ活動も、原則的に週5日に制限している。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒アンケート質問1「学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価が88.5%で、質問2「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が87.4%である。保護者アンケート質問1「生徒は楽しんで学校に通っている。」の肯定的評価が91.9%で、質問2「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が89.8%である。これは正課外の活動への期待、評価が高いことを示していると考えられる。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ここ数年来、アンケートでは概ね良好な評価が得られているので、従来通りの取組を継続していく。</li> <li>●学習時間の確保等のため、今年度からクラブ活動を週5日に制限したことの影響については今後検証していく。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【基本的生活習慣の確立】	自己評価	A
目標	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導／整理整頓や環境美化の指導		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●挨拶、時間厳守、身だしなみ等の基本的社会マナーについては、生徒指導部を中心に全教員で重点的に指導している。</li> <li>●整理整頓や環境美化については、風紀美化担当教員と風紀美化委員会および生徒会役員が中心となり、廊下の汚れを取るなどして、積極的に校内美化に努めている。</li> <li>●生徒アンケート質問10、保護者アンケート質問10の、基本的社会マナーについての項目では、生徒の肯定的評価が91.8%、保護者の肯定的評価が88.1%と大変高くなっている。その一方で、教員アンケート質問12の教員の肯定的評価は75.8%とやや低い。しかし、全教員で重点的に指導してきた結果、生徒や保護者からはおおむね高い評価を得られていると思われる。</li> <li>●肯定的評価が低く課題となっている教員アンケート質問13「整理整頓や環境美化に努めさせている。」の項目については、肯定的評価が一昨年度51.4%、昨年度57.5%、今年度66.7%と徐々に上がってきている。風紀美化担当教員と風紀美化委員会および生徒会役員が中心となり取組んできた成果が出始めている。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的社会マナーについては今後も全教員で重点的に指導していく。</li> <li>●整理整頓や環境美化の指導については、風紀美化委員会を中心に生徒会と教員が連携して、美化意識の向上などを粘り強く指導していくこととする。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】	自己評価	A
目標	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各行事において、生徒会役員がリーダーとなり委員会を組織して、その企画・運営を自主的に行っている。</li> <li>●代議員会および各委員会活動の活性化に重点を置き、生徒会活動およびHR活動を中心に自主自律の精神を育てている。</li> <li>●各行事の実行委員会には募集人数を超えて委員の応募があり、積極的に取組む生徒が増えている。</li> <li>●生徒アンケート質問7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価が75.9%、保護者アンケート質問11「中学部は、生徒の自主自立の精神を育成している。」では肯定的評価が89.8%と大変高くなっている。教員アンケート質問9「中学部は、生徒会などの自治活動が生徒によっ</li> </ul>		

	て盛んに行われるように配慮している。」の肯定的評価が75.8%と保護者に比べるとやや低くなっているものの、おおむね良い評価となった。これは各行事などにおいて担当教員と生徒会役員が連携して、全生徒がその活動に積極的に関われる仕組みづくりをしてきた結果が表れたものである。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後も各行事において、生徒会役員をリーダーとする委員会を組織し、その企画・運営を生徒が自主的に行うことで自主自律の精神を育成していく。</li> <li>●生徒会や委員会活動をさらに活性化し、生徒に自ら判断し行動できる力を身につけさせる。</li> <li>●複数年にわたって生徒会を担当する教員の権限をさらにひろげ、活動の継続性を高め活性化していく。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】	自己評価	B
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切・誠実」を念頭におき、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応をしている。</li> <li>●生徒の問題への対応についての教員間での共通理解については、生徒指導部内に情報共有フォルダーを作成し指導案件の報告をきめ細かに行ってきた。さらに、基本的共通理解のための教員用マニュアルを完成させ共通理解と意思統一を進めてきた。</li> <li>●生徒アンケート質問11、保護者アンケート質問12、教員アンケート質問16の、生徒の行動に問題があれば適切に対応しているかについての項目では、生徒・保護者・教員ともに肯定的評価の割合が高くなっている。しかし、保護者の評価が多く項目で肯定的評価85%を超える中で、この項目は81.6%とやや低くなっている。また、教員の肯定的評価は昨年度の90.6%から81.8%と下がっている。これは生徒の問題行動に対して、やや迅速さに欠けることがあったためと思われる。</li> <li>●課題であった教員アンケート質問15「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。」の項目は肯定的評価が一昨年度の66.6%、昨年度の72.7%と上がってきたが、今年度は69.7%とやや落ちた。情報共有ホルダーや教員用マニュアルの活用がやや不十分だった。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の問題行動に対してはさらに迅速に適切に誠実に対応していけるように、当該学年団と生徒指導部が今以上に密に連携しながら対応していく。</li> <li>●次年度は作成した基本的共通理解のための教員用マニュアルおよび情報共有フォルダーの活用の徹底をさらに進める。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】	自己評価	A
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2月に新入生健康診断、5月に全校生定期健康診断、6月に未受検者健康診断を実施した。新入生健康診断・定期健康診断の受診率は99.1%だった。</li> <li>●体育や部活動が盛んな中学部の特性から、校内で心臓突然死を防ぐために、特に心臓検診には力を入れており、心電図検査を毎年実施している。事後措置は個々の生徒の保健調査、競技種目による運動強度、日々の様子を基に学校医が再判定</li> </ul>		

	<p>を行い、心臓検診の質の向上に努めている。そのうえで要再検者へは受診勧告を行い、学校生活管理指導票の提出を依頼している。心臓検診事後措置については12月時点で対象者の92.9%が学校生活管理指導票を提出済みである。未受検者に対しては再度受診勧告を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●心理的な課題を抱える生徒について、週1回サポートルーム会議を実施。学年主任、支援コーディネーター、支援員、養護教諭、カウンセラーで情報共有を行い、当該生徒、保護者の支援について検討している。その結果、生徒アンケート質問12、保護者アンケート質問13、教員アンケート質問18の、生徒の健康について適切に把握しているかについての項目で、生徒の83.6%、保護者の84.0%、教員の93.9%から肯定的評価を受けた。</li> <li>●感染症の予防については、周辺学校の流行情報、欠席調査より学校感染症罹患者数を把握している。感染症拡大傾向がみられた場合は管理職、養護教諭で拡大防止のための対策を立てている。感染症予防対策については、保護者アンケート質問14「中学部は、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう感染症の予防に配慮している。」で、保護者の84.1%から肯定的評価を受けた。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●心臓検診事後措置において、タイムリーにフォローできるように、管理方法について検討し、12月末時点で受診率100%としていきたい。</li> <li>●心理的な課題を抱える生徒の支援について、年々中学部内だけでは支援が困難なケースが増えている。中学部内にとどまらず、外部機関（児童相談所、医療機関、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーなど）との連携が必要である。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】	自己評価	A
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均来室者数は、内科的理由が105.3件/月、外科的理由が84.7件/月である。（12月末現在）</li> <li>●日常の疾病、怪我については迅速に、適切に処置できるよう努めている。</li> <li>●病状報告、対応については保護者と連携、相談しながら行っている。</li> <li>●学校生活の中で配慮が必要となる生徒の病状とその対応については、教員間で情報を共有している。</li> <li>●生徒アンケート質問14、保護者アンケート質問15、教員アンケート質問20の、怪我・急病発生時の対応についての項目では、生徒の89.4%、保護者の90.7%、教員の96.9%から肯定的評価を受けている。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後も怪我・急病発生時の対応、疾病予防については、迅速かつ適切に対応できるよう取組んでいきたい。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【学校運営についての保護者（PTA）との協力状況】	自己評価	A
目標	PTAと協力した学校行事の運営／教育内容に関する保護者との意見交換		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全校行事のサポートとして、文化祭で地区ごとに分かれて中学部グッズ・飲食物等の販売を行い、また、中庭喫茶の運営を行っている。マラソン大会では、スポーツドリンクの差し入れを行っている。その他にも、「PTA聖書を学ぶ会」、「PTAだより」の活動を展開している。</li> <li>●保護者へのアンケート質問16「中学部は、行事などの際に、適宜PTAと協力してこれを実施している。」に対して、肯定的評価が97.1%（昨年度95.7%）と昨</li> </ul>		

	年度よりさらに高い数値を示していることから、昨今、保護者のPTAへの参加率の低迷が社会問題になっているにも関わらず、取組が評価されていると考えられる。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者との意見交換ができる時間を、今まで以上にもうける。</li> <li>●さらに多くの保護者の意見を吸い上げることができる環境の整備を行う。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施やPTAとの協議会の運営状況】	自己評価	A
目標	PTA幹事会等の適切な開催／クラス担任と保護者との面談の実施／クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PTA幹事会を年5回（1学期2回、2学期2回、3学期1回）行っている。ここでは、学校行事での活動方針を話し合い、実行した後には反省点を挙げて次年度の活動につなげている。PTA幹事会では毎回、活発な意見交換がなされている。</li> <li>●クラス担任と保護者の会、クラブの保護者会を盛んに行っている。</li> <li>●クラス担任と保護者の二者面談をすべてのクラスで行っている。</li> <li>●保護者アンケート質問17「中学部は、PTA幹事会等、PTAとの協議会を適切に開催している。」に対して肯定的評価が97.6%、保護者アンケート質問18「中学部は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。」に対して肯定的評価が85.5%と高い評価となっている。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者とクラス担任との面談については、その内容・時間・時期について、保護者の満足度を上げるように考えていく。具体的には、学校行事のひとつとして、クラス面談の時期を設けることなどが考えられる。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】	自己評価	A
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有／キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日行われている礼拝や聖書科授業、そしてさまざまな行事を中心にキリスト教主義教育のプログラムを展開し、その理念を生徒、保護者、教員が共有できるように機会を設けている。保護者に対してはPTA集会の礼拝や「PTA聖書を学ぶ会」等でキリスト教主義教育に接する機会を設けている。</li> <li>●生徒アンケート質問15「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。」の肯定的評価は82.8%（昨年度77.9%）と昨年度より約5%高くなっている。</li> </ul> <p>また、生徒アンケート質問16「キリスト教に関する理解が深まっている。」の肯定的評価は78.7%（昨年度76.6%）、保護者アンケート質問19「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている。」の肯定的評価は96.9%（昨年度94.7%）といずれも昨年度より約2%高くなっている。それぞれの肯定的評価は毎年継続的に高い数値である上、より高くなったということは注目すべきことである。これらに対して、教員アンケート質問25「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。」の質問に対する肯定的評価が63.6%（昨年度63.7%）と昨年度とほぼ同じ数値であった。</p>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次年度は、創立130年という記念すべき時を迎えた中学部として、受け継がれてきた建学の精神であるキリスト教の精神を守り継ぐために、これからの時代に適</li> </ul>		



	<p>応じたキリスト教主義教育のあり方を検証し、具体的でかつ新しい教育プログラムを展開する。</p> <p>●教員に対して、今年度は研修の時間を持ったが、充分であったとは言えず、礼拝の機会だけでなく、理念を共有するための研修の企画や関西学院内のキリスト教主義教育にかかわる行事等への積極的な参加を呼びかけていく。</p>
--	--

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の実践】	自己評価	A
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●キリスト教主義教育の実践として、毎日の礼拝の時間を中心として、生徒と教員がキリスト教精神にふれるプログラムを実施している。</p> <p>●礼拝の奨励者には教員に加え、学外の各分野からも奨励者を招き、いのち、人権、平和などをテーマにした幅広い主題で奨励を行っている。また、生徒たちが自主的に取組む生徒礼拝も毎月平均6回開催し、毎週1回の早天礼拝も定着して行われている。</p> <p>●生徒アンケート質問17「礼拝では学内外の様々な人の話を聴くことができる。」の肯定的評価は91.4%（昨年度91.0%）と昨年度より高くなっている。生徒たちにとって、特に学外講師の奨励は激励となり、自分たちの生き方を考える場になっている。教員アンケート質問26「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている。」の肯定的評価は84.8%（昨年度81.8%）と昨年度より3%数値が上がったことに加え、教員アンケート質問27「中学部は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。」の肯定的評価は78.8%（昨年度68.8%）と10%も数値が上昇したことはこれまでにはみられない傾向である。</p>		
今後の方策	<p>●いのち、人権、平和、道徳教育などのさまざまなテーマを考慮しながら、宗教運動や毎日の礼拝での奨励、特にさまざまな分野で活躍されている講師による奨励や聖書科の授業カリキュラムを通して考え、学ぶことができるように計画する。</p> <p>●生徒たちの自主的な運営による礼拝がより充実していくよう、指導していく。</p>		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【読書・図書館教育】	自己評価	A
目標	読書生活の推進と実態把握／図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開／読書・図書館教育に特化した学校行事の実施／		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●読書科という教科指導を通じて、図書館の利用、情報の獲得・整理・活用・表現の方法や技術等を学習している。問う、答える（調べる）、伝える、という学びのサイクルを基本におき、その集大成として3年生時には卒業レポートの作成と、プレゼンテーションを行っている。</p> <p>●以前の校内読書感想文コンクールに変わるものとして、各省庁や法人・企業などから案内のある募集型のレポートや作文などについて、読書科が窓口になり、広く生徒に情報を伝達し、生徒がどれかひとつは応募作品を提出する形で、文芸コンクールを実施している。</p> <p>●読書科の授業による教育だけでなく、国語科・読書科による授業前の10分間読書の実施などを通じて、読書習慣の定着を図っている。</p> <p>●クラス担任も、生徒が作成する読書カード（読後感などを記入する）の点検を通じて、読書の大切さを共有している。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒アンケート質問 18 と質問 19、保護者アンケート質問 20 と質問 21、教員アンケート質問 28 と質問 29 の、読書・図書館教育についての項目では、生徒の肯定的評価が質問 18 で 73.0%、質問 19 で 88.8%、保護者の肯定的評価が質問 20 で 92.3%、質問 21 で 86.9%、教員の肯定的評価が質問 28 で 100%、質問 29 で 90.9%となった。中学部の伝統的な読書教育の意義が生徒、保護者、教員の三者ともに浸透していることが見て取れる。</li> <li>●文芸コンクールでは、今年度も様々なコンクールに応募し、応募した生徒の中から 30 名近くの受賞者を輩出した。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒アンケート質問 18 「学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。」については、今年度も肯定的評価が 73.0%と他の項目に比して低い結果となっており、どの部分が肯定的に捉えられていないのかを明らかにしていく必要がある。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【芸術教育】	自己評価	A
目標	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成／音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常の音楽・美術の授業に加えて、秋に行われる文化祭では、学年・クラスが合唱や器楽演奏を披露する音楽コンクールや学年ごとにテーマを設定し生徒全員が作品制作に取り組む美術展などを開催している。</li> <li>●生徒アンケート質問 23 の「音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。」の肯定的評価は、一昨年度の 67.0%から、昨年度は 68.2%と上昇し、今年度は 70.3%となった。評価の上昇率は高いとは言えないが、徐々に現在の形のカリキュラムや音楽コンクールが定着してきたと言える。</li> </ul>		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の発表の場（音楽コンクールを含む文化祭）に時間的、物理的（会場の問題）な制約があるので、生徒の要求に答えられていない部分がある。高等部とも調整しながら、発表の場をどのように広げていけるかを模索する。</li> </ul>		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【キャンプ・体験的学習】	自己評価	A
目標	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャンプ・体験学習は中学部が長年大切にしてきた伝統的行事の 1 つである。1 年生時は入学直後の千刈オリエンテーションキャンプ（2 泊 3 日）、2 年生時は関西学院が所有している岡山県にある無人島の青島でのキャンプ（4 泊 5 日）、3 年生時は修学旅行（4 泊 5 日）と、各学年で特徴的な校外宿泊行事を設けている。</li> <li>●1 年生時の飛鳥での校外学習、2 年生時の奈良での校外学習、3 年生時の修学旅行では、事前に生徒に行動計画を練らせ、班行動を中心とした自主研修を組み入れている。</li> <li>●生徒アンケート質問 25、保護者アンケート質問 27、教員アンケート質問 33 の、キャンプや体験学習についての項目でも、概ね評価が高く、生徒、保護者、教員とも、肯定的評価率の変化はほとんどない。特に教員アンケート質問 33 の「中学部は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力をする心を養っている。」の肯定的評価は 100%となっている。</li> </ul>		

今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●青島キャンプにおいては、その意義は、生徒、保護者、教員の誰もが認めるところであるが、近年の夏の異常高温にともなう体調管理の観点など、安全対策の部分は今後これまで以上に検討、改善をしていく必要がある。</li> <li>●修学旅行では、長崎において被爆遺構巡りをプログラムの一つの柱にしているが、講師（被爆体験のある方々）の高齢化に伴い、従来の形でのプログラムの続行が危ぶまれる状態となっているので、このプログラムの継続の是非を考えていく。また、近年修学旅行で民泊をプログラムに組み込むことが増えているが、その是非や場所の選択に関しても検討を続けていく。</li> </ul>
-------	---

評価項目 【テーマ】	関西学院共通項目 【関西学院における一貫教育を含めた総合関西学院としての観点】	自己評価	A+
目標	<p>スクールモットー“Mastery for Service”の認知度・共感度を知る。／スクールモットー“Mastery for Service”の認知度向上を図る。／学校の教育が、関西学院の使命である「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながっていることを再認識してもらう。</p>		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●関西学院の建学の精神を表すスクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践について、生徒、保護者、教員に対して共通の質問を提示し、回答を得た。生徒アンケート質問 27、保護者アンケート質問 29、教員アンケート質問 35 の「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」の肯定的評価は、生徒が 98.9%、保護者が 98.4%、教員が 100%という高い数値であった。スクールモットーが生徒、保護者、教員で周知の精神となっていることがわかる。生徒アンケート質問 28、保護者アンケート質問 30、教員アンケート質問 36 の「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。」の肯定的評価も、生徒は 90.5%、保護者は 96.4%、教員は 100%という高い数値であった。生徒アンケート質問 29、保護者アンケート質問 31、教員アンケート質問 37 の「中学部は、『“Mastery for Service”を体現する世界市民』の育成につながる教育を実践している。」の肯定的評価も、前の二つの質問よりは低いが、生徒が 84.4%、保護者が 89.4%、教員が 93.9%という高い数値であった。“Mastery for Service”の理念の共有と教育的実践について、生徒、保護者、教員が積極的に受け止めて、実践しようとしていることがわかる。この数値が表すことは中学部がスクールモットーを基に教育活動を展開していることを生徒、保護者、教員が共通に理解し努力しているということである。</p>		
今後の方策	<p>●スクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践についての肯定的評価は数字の上では高いが、教育活動において、より具体的にその理念をどのように展開するかを検討し、授業や行事等において展開する。</p>		

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

## 総合評価

- 新設問であるスクールモットー“Mastery for Service”について、生徒・保護者・教員すべてで認知度は高かったが、スクールモットーに基づく教育実践ではその質の向上が求められている。建学の精神を日々の教育活動に具現化する意識を高めていきたい。
- 人の痛みが分かり他者を尊重する感性を磨くべく、今年度は教員対象の人権教育研修会を複数回開催した。また礼拝の中で、関西学院内外のスピーカーから人権や平和などのメッセージに与る機会をひきつづき積極的に提供していく。
- 尊重という点で、保護者の声をより適切に汲みとる必要がみてとれる。今年度、保護者が授業参観された感想を当該授業担当教員に直接フィードバックしたが、次年度も実施を継続していきたい。
- 教科面では、新学習指導要領のめざすところを念頭においた教育目標の精緻化作業に着手した。また、英語科・数学科は、高等部カリキュラムとの接続強化をめざし、教科教育の質の向上を図っている。
- 中学部が既に取り組んでいる探求的活動や課題解決型学習の一層の進展、及び評価方法の多様性などについて今後検討していきたい。この検討のため、当該活動や学習の実践例を全教員で学ぶ研修の機会を提供していく。
- 今年度、「クラブ活動週5日の原則」の方針を教員間で確認した。生徒が自らの生活をマネジメントし創り出していく自主自律の精神がさらに育まれることが期待される。
- 改善への期待が寄せられていた国際理解教育では、教員の働き方改革の観点からも、学校主催の国際プログラムに加えて、教員の引率を伴わない民間国際プログラムなどを生徒に紹介してきた。引き続き同種プログラムを安定的に紹介するとともに、学校生活全体を通じて異文化理解の醸成を図りたい。
- 一貫教育の隣接校種である高等部とは、今年度、キリスト教主義教育についての合同研修会を開催した。同部との連携に関する教員の肯定意識は向上したが、多方面にわたって情報交換と連携を進展させる必要があると考える。同じく、初等部との情報交換と連携をここ数年強化してきているが、同部との相互理解を一層深めるための取組を模索していきたい。
- 中学部は、多感な時期にある中学生に、キャンプなどの体験学習を通して「困難に向きあう粘り強さ」「誠実さ」「品位」などの非認知的側面を養い鍛える全人教育を大切にしてきた。今後の多様な社会・世界の中で、以前にもまして主体的・協同的に生きていくことが求められる生徒のため、伝統の全人教育に見直しと磨きをかけつつ、その精神を継承していきたい。

## 2019年度の評価をふまえて2020年度に予定している評価項目、テーマ等

- 評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、⑦関西学院共通項目の7項目を継続して取り上げる。

## 第三者評価/学校関係者評価

教育課程・学習指導に関しては、従来同様、生徒、保護者ともに学校への満足度、教育課程やその内容、さらに学習指導に関する評価が高い点は、日々の教育実践の積み重ねの成果として高く評価できます。また生徒の多様化に伴う学力格差の問題に関して、補習や分割授業の実施などの取組がなされている点も評価でき、学力が高い生徒に対する発展的、応用的内容の充実とともに、今後もこうした対応が継続されることを期待します。しかし多忙化する学校環境にあって、現在のスタッフでこれらの問題に対応するには限界もあることから、具体的な人的・財政的支援が必要であると考えます。

高等部との連携に関しては、英語科や数学科で高等部カリキュラムとの接続強化がめざされたり、キリスト教主義教育についての合同研修会が開催されたりと、従来に比べ連携が進んでいる点は高く評価でき、今後一層の連携が図られることが期待されます。

礼拝を核としたキリスト教主義教育、読書、青島キャンプや千刈キャンプといった体験学習など、中学部は従来から特色のある教育実践に取り組んでおり、こうした点は非常に高く評価できます。

また他に類を見ない読書科については、活字離れが進む今日においてその意義は極めて大きいとともに、今求められているアクティブラーニングを通じた教科横断的な汎用的能力の育成という面からも大いに期待されることです。また従来から実施されてきた応募型のレポートや作文などへの応募や指導は、これからの時代に一層求められる自己発信力（自分の考えや意見を分かりやすく伝える力）の育成において大きな意義を持つと考えられ、今後の継続と充実が期待されます。

全体として、自己点検・評価が誠実になされ、今後の改善方策も的を射たものであり、改善への取組も概ね良好であることから、PDCAサイクルはうまく機能していると判断されます。

キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本において、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切にされている中学部は、生徒・保護者双方の高い満足度を得ていることが、アンケート全体からわかります。中学部での長い歴史を持つ伝統的な特徴といえる項目、「課外活動の充実」「読書・図書館教育」「キャンプ・体験的学習」「キリスト教主義実践」においては、昨年までと同様に安定して高い評価が得られており、中学部の核をなす伝統的な実践に生徒と保護者が強く信頼を寄せていることがわかります。さらに、中でも「キリスト教主義教育の実践【キリスト教主義教育の推進】」においては、礼拝の奨励者に教員だけではなく学外からも奨励者を招かれていることや生徒の自主的な運営による礼拝を進めておられることで、中学部のキリスト教主義による人間教育への肯定的評価は、生徒と教員ともに、「安定」以上の評価の上昇があることは特筆に値します。

学習活動においては、昨年度は、教員の「教育課程の全体を理解している」や「客観的な学力把握に努めている」の自己評価の低下が指摘されましたが、今年度は生徒・保護者ともに評価が向上しており、継続的に導入されている外部テストに対してのより工夫を凝らした取組（評価の意味の説明や表彰など）の成果と言えます。また、従来の英語に加え、数学でも分割授業を一部導入され、補習も継続的に行っておられることに対する保護者の評価も向上しています。一人一人の生徒を大切に丁寧な教育を推進されていることを大いに評価します。

生徒指導に関しては、「情報共有フォルダー」によって共有された情報の有効な運用や活用が継続的な課題といえるかもしれません。「情報共有フォルダー」や「基本的共通理解のための教員用マニュアル」の活用の徹底と共に教員の日常的なコミュニケーションが必要ですが、教員の業務が複雑化し多忙であることの改善とも併せて検討が必要なことと思われまます。

生徒指導の中でも、基本的社会マナーの指導に関しては、今年度は、生徒指導部を中心に全教員で重点的に指導され、生徒と保護者からの評価も一層高まっています。

クラブへの入部率は95%程度と継続的に高い率を保持されており、生徒・保護者の満足度は大変高くなっています。今年度導入された「クラブ活動週5日の原則」がどのように影響するのか、勉学をはじめとする他の活動とのバランスが一層図られる肯定的なものとなることを期待しています。

様々な新たな方針や工夫を取り入れ、伝統のキリスト教主義を根幹とした全人教育を時代の変化を見据えながら進化させておられる中学部が、高等部との直接の連携も深められながら一層発展されることを願います。

#### ＜教育課程・学習指導＞

- 毎年「学習ガイドブック」を配布し、生徒だけでなく全教員が共通理解のもと学習指導に取り組んでいることの効果は大きいと考えます。
- 様々な外部試験等を実施し、結果や分析を全教員に開示することにより、生徒の客観的な学力の把握に努め、日常の授業の工夫や改善が行われています。
- 教科担当の会議や教員会議で生徒の情報交換を実施していることで、教科、領域を問わず全教員が個別の生徒についての情報を共有できています。

- 生徒の学習状況については、定期試験だけでなく、小テスト等様々な方法で伝達することにより、生徒も自分自身の学習目標を具体的に描くことが出来るようきめ細かい工夫がなされています。
- また、基礎的な内容を定着させることと併せて発展的・応用的な内容にも取組ませることで、生徒の学力保証、そして興味関心に応じた授業が展開されています。
- 応用的、発展的な学習、英語・数学における分割授業、補習、学習指導会、定期試験前の学習会等の実施など、個々の生徒の学習状況にあわせた学力向上の取組が行われています。
- ほとんど（95%程度）の生徒がクラブ活動に参加しており、そこから「感謝、祈り、練達」の教育理念の具現化を図ろうとする生徒及び学校の意欲や姿勢が分かります。併せて、クラブの活動停止期間を設けることで、学習との両立や他の幅広い体験につなげる工夫がなされています。

#### ＜生徒指導＞

- 社会の基本的なマナーについて、全教員で重点的に指導していることの意義は大きいです。
- 生徒会活動が活発に行われており、各行事等も実行委員会を中心に積極的な生徒の関わりがあります。意欲を持った生徒による主体的な学校行事の運営や参加の状況が伺えます。
- 教員が複数年にわたって生徒会を担当することで、生徒会活動の継続性が保たれています。
- 問題行動については、「迅速・適切・誠実」を念頭に学年と生徒指導部さらに管理職が組織的に対応し、解決を図っています。
- 生徒の問題等について、教員の共通理解を図るために生徒指導部内に「情報共有フォルダー」を作成していることは、非常に有効に機能するものと思われます。

#### ＜保健管理＞

- 心電図検査を毎年実施していることは、学校保健安全法を超えた先進的な取組であり、また事後措置も丁寧に行われています。生徒の安全を守るための素晴らしい取組です。
- 身体面の変化だけでなく、心理的要因での保健室ニーズが高まっていますが、保護者、学校、カウンセラーが有機的に連携し生徒のサポートに努めています。
- 多様化する生徒や保護者のニーズに対して、気軽に相談できる保健室体制をさらに充実させる工夫が必要です。

#### ＜保護者との連携＞

- PTA幹事会、全校行事のサポート、クラブの保護者会等、様々な機会を通じて保護者と時間を共有するよう努め、保護者に学校への協力と学校理解を促す取組を工夫しています。
- 全クラスで保護者との二者面談を行い、保護者と顔と膝を突き合わせて生徒のことを話し合う機会を持っていることはあらゆる意味で非常に重要です。

#### ＜キリスト教主義教育の実践＞

- 毎日の礼拝、聖書科授業を学校の重要な柱として、キリスト教主義教育についての理解を深め、生徒の人格の完成にむけた取組が行われています。
- 保護者に対しても、「PTA聖書を学ぶ会」等でキリスト教主義の理解が深まるよう努めています。
- 毎日の礼拝の時間に併せ、生徒礼拝や早天礼拝が定着し生徒が積極的に礼拝に関わろうとする姿勢がわかります。また、学外から奨励者を招いて様々なテーマで奨励を行っていることが、生徒にとって自分の生き方を考えるきっかけとなっています。
- 生徒による自主的な運営によりさらに充実した礼拝となることを期待しています。

#### ＜特色ある教育の実践＞

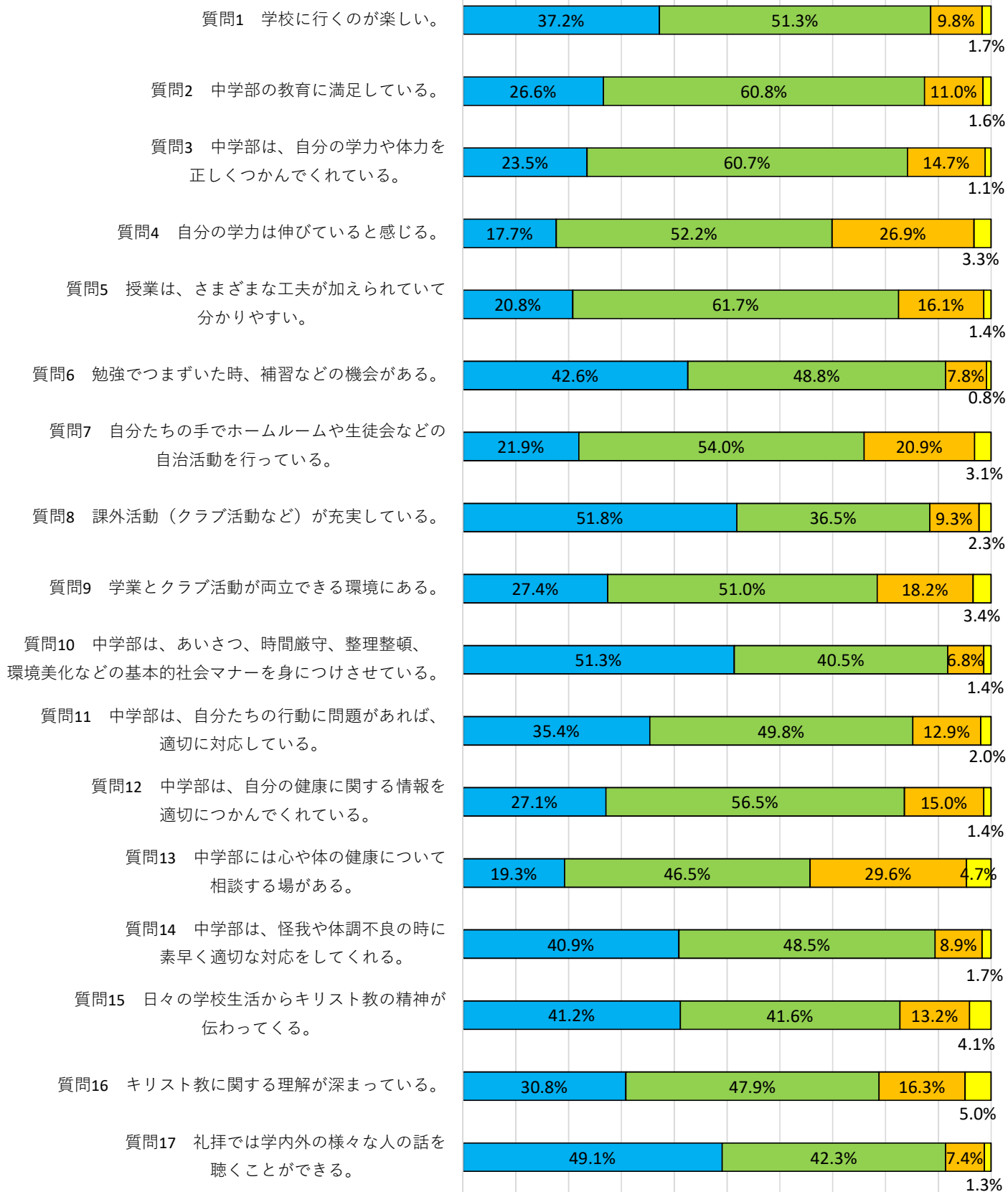
- 整備された図書館を活用して読書科の授業が実施されており、読書習慣を定着させるとともに、様々な情報の獲得・整理・活用・表現の技能が高められています。
- 中学部の特色でもある読書科の取組により、生徒が読書に親しむ態度が形成されていると同時に、教科を超えた探求的な学習を行う力の育成が行われています。
- 音楽・美術を中心とした芸術教育の充実によって、生徒の豊かな感性を育むよう努めています。音楽コンクールや美術展では、生徒の意欲的な取組が定着してきています。

●各学年で工夫した特色ある体験活動が実施されており、事前の行動計画の作成や自主研修など生徒の自主性を尊重した取組となっています。

2019 年度学校評価

2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・生徒 (回収率 97.7% 707人/724人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

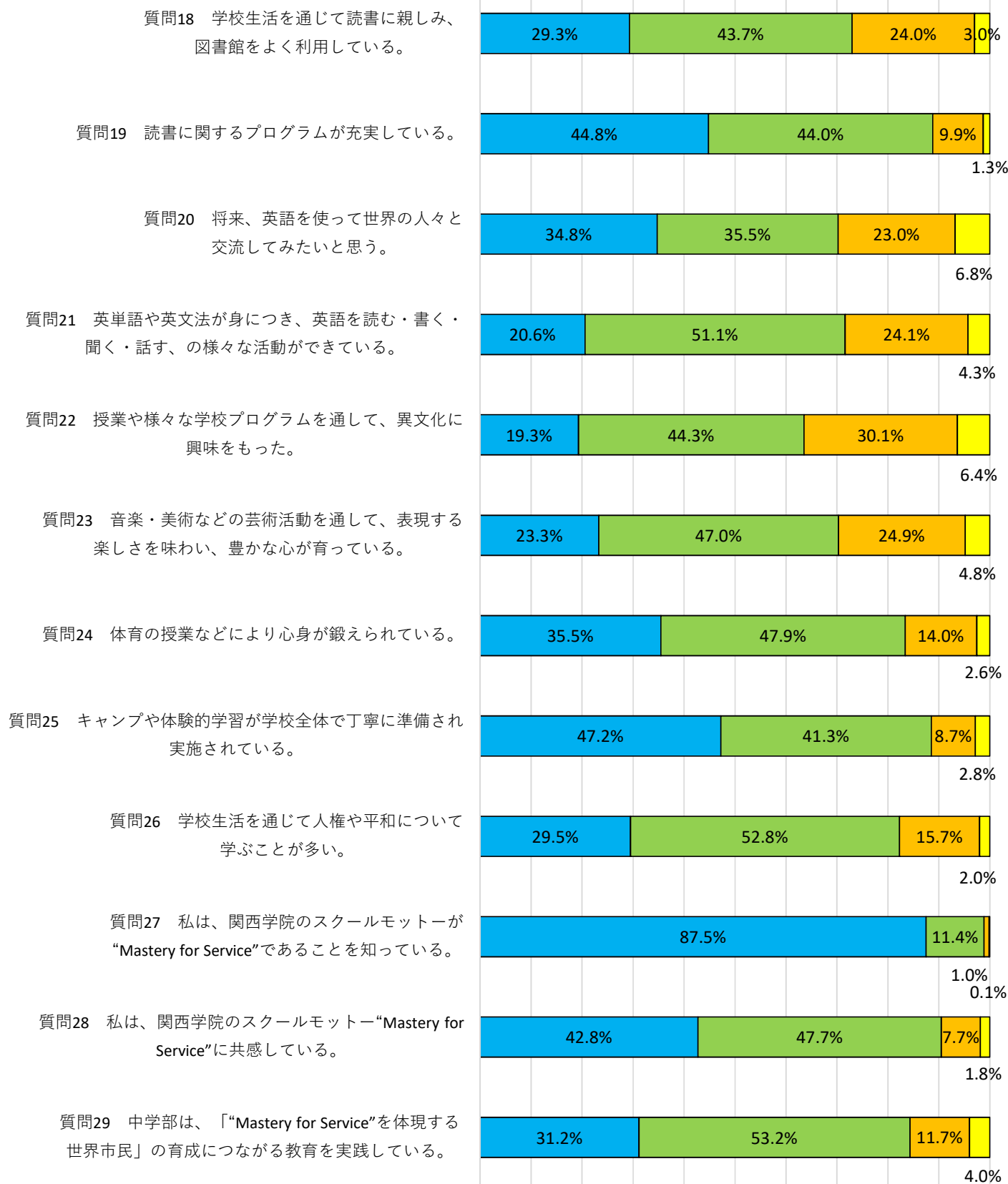


■回答番号1: 強く思う ■回答番号2: どちらかといえば思う ■回答番号3: あまりそう思わない ■回答番号4: まったくそう思わない



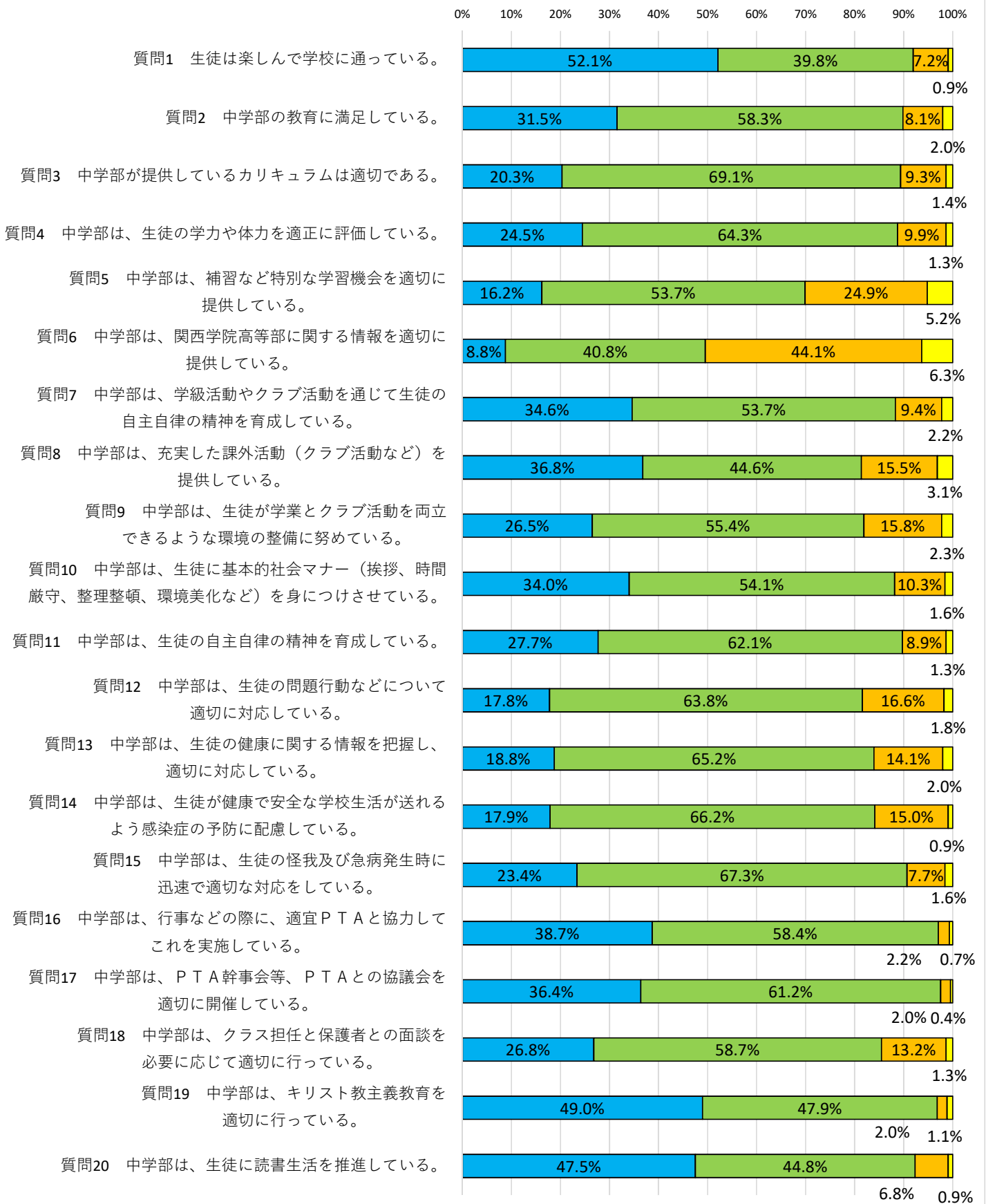
2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・生徒 (回収率 97.7% 707人/724人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■回答番号1: 強く思う ■回答番号2: どちらかといえば思う ■回答番号3: あまりそう思わない ■回答番号4: まったくそう思わない

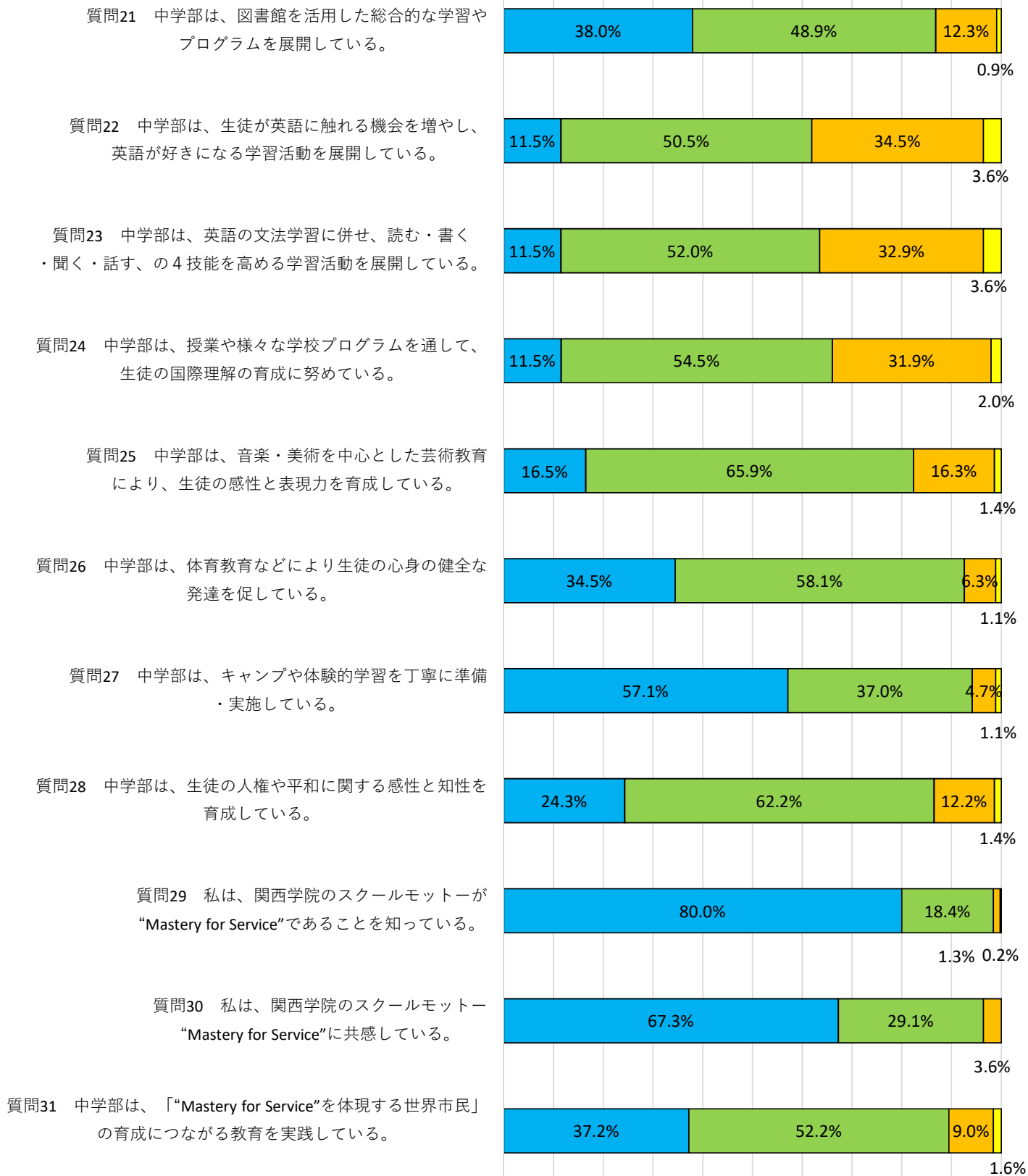
2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・保護者 (回収率 61.9% 448人/724人中)



■回答番号1:強くそう思う ■回答番号2:どちらかといえばそう思う ■回答番号3:あまりそう思わない ■回答番号4:まったくそう思わない

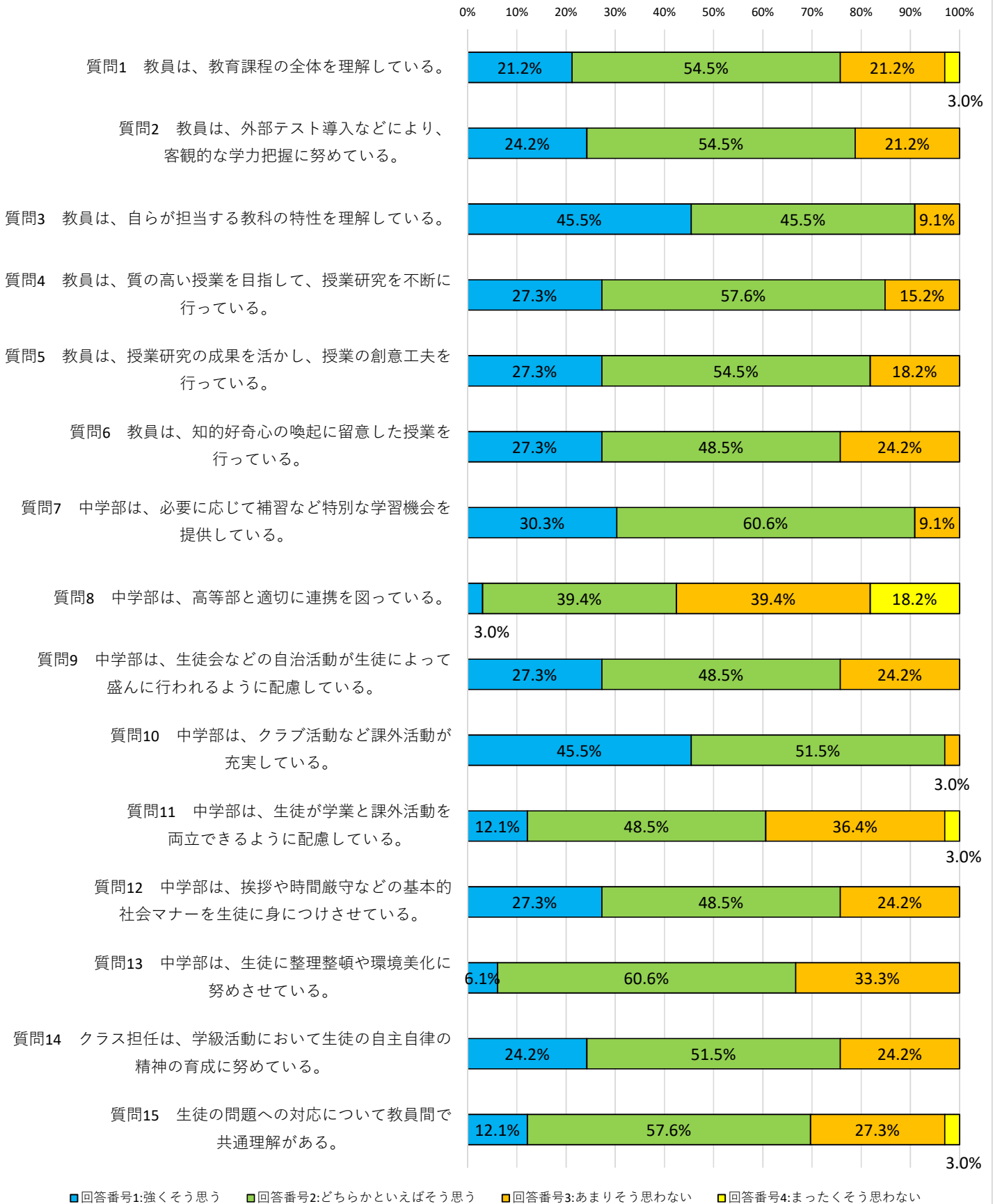
2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・保護者 (回収率 61.9% 448人/724人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



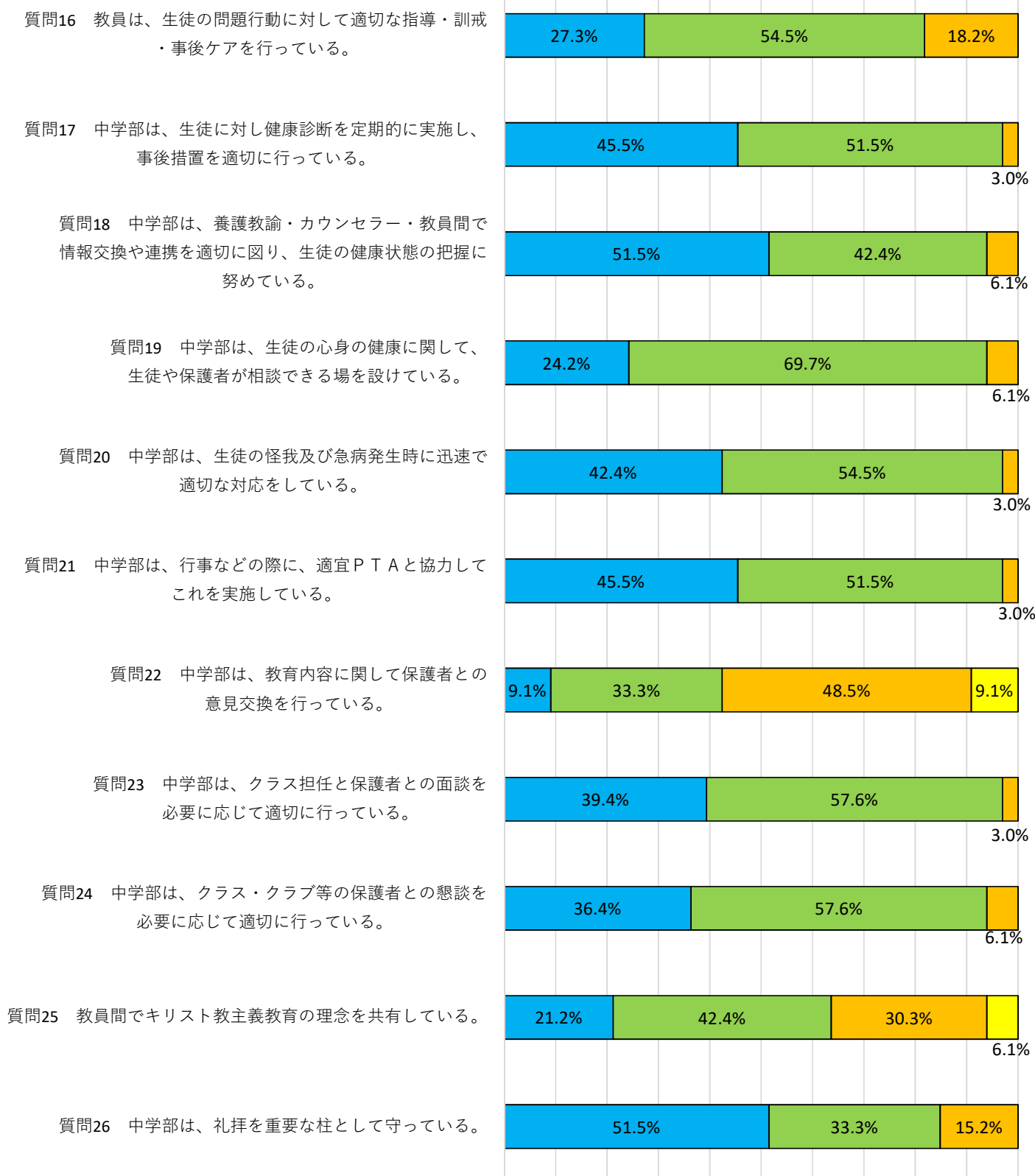
■ 回答番号1:強くそう思う ■ 回答番号2:どちらかといえばそう思う ■ 回答番号3:あまりそう思わない ■ 回答番号4:まったくそう思わない

2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員 (回収率 100% 33人/33中)



2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員 (回収率 100% 33人/33中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■回答番号1:強くそう思う ■回答番号2:どちらかといえばそう思う ■回答番号3:あまりそう思わない ■回答番号4:まったくそう思わない

2019年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員 (回収率 100% 33人/33中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

